

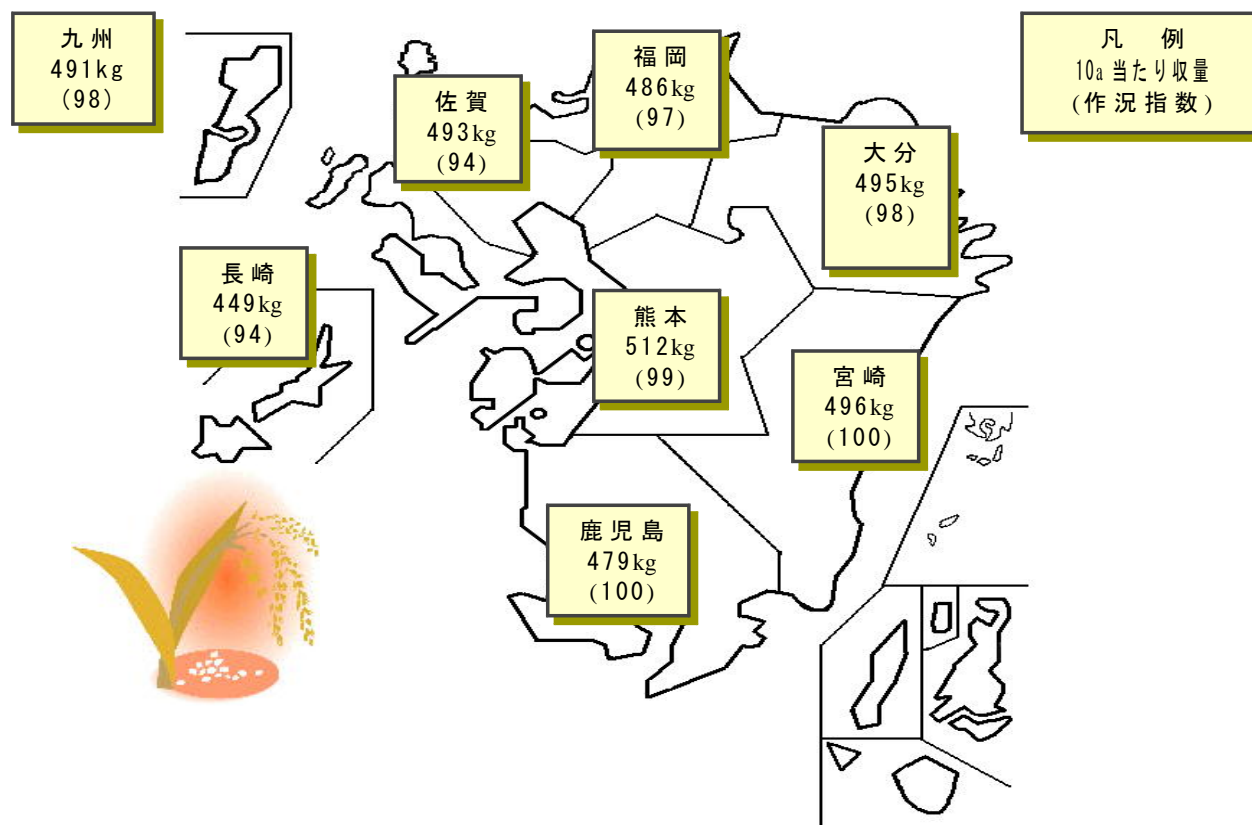
平成22年産水陸稲の収穫量（九州）

_____ 水稲の10a 当たり収量は491kg（作況指数98） _____
 収穫量（子実用）は93万3,000t

【調査結果の概要】

九州における平成22年産水稲の作柄は、出穂期以降おおむね天候に恵まれ、登熟は順調に推移したものの、全もみ数が少ないことや高温の影響及び病虫害の発生により被害が拡大したことから、10a 当たり収量は491kg（作況指数98）、収穫量（子実用）は93万3,000tとなりました。

図 水稲の県別10a 当たり収量



○ 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率です。

本統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html> 】

この統計調査における調査目的、調査対象などは、【調査の概要】P11に掲載しています。

【調査結果】

1 作柄概況

(1) 早期栽培水稻（主産県：宮崎・鹿児島）

作柄は、宮崎は10a当たり収量479kg（作況指数100）、鹿児島は同430kg（同98）となりました。

これは、田植期の低温・日照不足により生育が抑制されたものの、出穂期以降天候に恵まれ、台風の襲来もなく登熟が「やや良」となったためです。

(2) 普通栽培水稻

ア 全もみ数は、穂数が少なかったことから、九州各県、「やや少ない」ないし「少ない」となりました。

イ 登熟は、出穂期以降おおむね天候に恵まれ、台風の襲来もなかったことから九州各県、「平年並み」ないし「やや良」となりました。

ウ 作柄は、出穂期以降、高温傾向に推移し一部で登熟が阻害され、また、紋枯病やウンカの発生により被害が拡大したことから、福岡は10a当たり収量486kg（作況指数97）、佐賀は493kg（同94）、長崎は449kg（同94）、熊本は512kg（同99）、大分は495kg（同98）、宮崎は509kg（同100）、鹿児島は494kg（同100）となりました。

(3) この結果、九州の10a当たり収量は491kg（作況指数98）となりました。

2 収穫量

収穫量（子実用）は93万3,000tとなりました。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は92万5,100tとなりました。

3 被害状況

早期栽培では、気象被害及び病虫害の発生が少なかったことから、被害は少なくなりました。

普通栽培では、気象被害は、6月下旬から7月上旬及び7月下旬の日照不足により分げつが抑制され、出穂期以降、高温傾向に推移したことから一部で登熟が阻害されました。また、病虫害では紋枯病及びウンカの発生により被害が拡大しました。

このことから、被害はやや多いとなりました。

表 1 平成22年産水陸稲の作付面積及び収穫量

区 分	水 陸 稲 計		水 稲						
	作 付 面 積 (子実用) ha	収 穫 量 (子実用) t	作 付 面 積 (子実用) ha	10 a 当 たり 収 穫 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参 考)			
						主 食 用 作 付 面 積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10 a 当 たり 平 年 収 量 kg	作 況 指 数
①	②	③=①×②	④	⑤=④×②	⑥	⑦=②/⑥			
九州計	190 000	933 000	190 000	491	933 000	188 400	925 100	502	98
福岡	39 400	191 500	39 400	486	191 500	39 000	189 500	499	97
佐賀	27 800	137 100	27 800	493	137 100	27 700	136 600	527	94
長崎	14 000	62 900	14 000	449	62 900	13 900	62 400	476	94
熊本	39 500	202 200	39 500	512	202 200	39 100	200 200	515	99
大分	24 400	120 800	24 400	495	120 800	24 300	120 300	503	98
宮崎	20 100	99 700	20 100	496	99 700	20 000	99 200	495	100
早期栽培	8 580	479	41 100	478	100
普通栽培	11 500	509	58 500	509	100
鹿児島	24 800	118 800	24 800	479	118 800	24 400	116 900	479	100
早期栽培	5 890	430	25 300	439	98
普通栽培	18 900	494	93 400	492	100

区 分	陸 稲			
	作 付 面 積 (子実用) ha	10 a 当 たり 収 穫 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参 考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比
九州計	x	219	x	110
福岡	-	-	-	-
佐賀	-	-	-	-
長崎	x	x	x	x
熊本	6	150	9	102
大分	0	196	1	93
宮崎	6	234	14	111
早期栽培
普通栽培
鹿児島	9	233	21	104
早期栽培
普通栽培

注:1 作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積です。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積です。

3 収穫量の九州計は県の積み上げ値であるため、表頭の計算と一致しない場合があります。

4 「-」は事実のないもの、「…」は事実不詳又は調査の欠くものを示します。

5 「X」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表していません。

6 秘匿方法については、調査対象数が3未満の場合には調査結果の秘密保護の観点から、該当結果を「X」表示する秘匿措置を施しています。

表 2 平成22年産水稻の県別作柄概況

区 分	10a 当たり 収量 ①	(参 考)		刈 取 期					(平 年 比 較)			
		10a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		穂 数 の 多 少	1 も 穂 数 の た 多 り 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
							平 年 比 較	前 年 比 較				
kg	kg	③=①/②	月 日	月 日	月 日	日	日					
福 岡	486	499	97	8.31	10. 2	10.22	2日早	2日早	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
福 岡	468	481	97	8.27	10. 6	10.17	3日早	4日早	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良
北九州・豊前	483	481	100	8.23	9.18	10.17	1日早	1日早	少ない	多い	平年並み	やや良
筑 豊	472	485	97	8.24	9.19	10.18	2日早	2日早	少ない	やや多い	少ない	やや良
北筑後	506	519	97	9.19	10. 9	10.28	3日早	2日早	やや多い	やや少ない	やや少ない	平年並み
南筑後	489	517	95	9.24	10.11	10.26	1日早	並み	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや不良
佐 賀	493	527	94	8.31	10. 9	10.29	1日遅	1日遅	やや少ない	やや少ない	少ない	平年並み
佐 賀	504	536	94	9.17	10.10	10.30	1日遅	並み	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み
松 浦	448	492	91	8.19	9.26	10.19	1日遅	並み	少ない	やや少ない	少ない	やや良
長 崎	449	476	94	8.23	10.12	10.25	2日遅	並み	少ない	やや少ない	少ない	やや良
西 彼	435	477	91	9.25	10. 2	10.12	2日遅	2日早	少ない	少ない	少ない	良
東南部	485	511	95	10. 2	10.14	10.25	並み	並み	少ない	平年並み	少ない	平年並み
県 北	426	458	93	8.21	10.15	10.26	4日遅	並み	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良
五 島	337	408	83	8.16	10. 2	10.13	6日遅	3日遅	少ない	平年並み	少ない	やや不良
壱岐・対馬	457	446	102	8.20	9.26	10.13	1日早	2日早	少ない	やや多い	少ない	良
熊 本	512	515	99	8.17	10. 5	10.25	2日早	2日早	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
県 北	529	528	100	10. 3	10.13	10.26	2日早	3日早	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良
阿 蘇	503	510	99	9.16	9.27	10.20	2日早	3日早	少ない	多い	少ない	良
県 南	504	510	99	9. 6	10. 6	10.27	4日早	4日早	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
天 草	392	437	90	8. 4	8. 9	10.10	並み	1日遅	少ない	少ない	少ない	やや良
大 分	495	503	98	9.18	10.14	10.27	並み	2日早	少ない	やや多い	少ない	やや良
北 部	507	517	98	9.18	10.16	10.29	1日早	2日早	平年並み	やや少ない	少ない	やや良
湾 岸	496	500	99	9.16	10.15	10.24	1日遅	1日早	少ない	やや多い	少ない	良
南 部	489	498	98	9.20	10.14	10.29	1日遅	3日早	少ない	多い	少ない	やや良
日 田	479	490	98	9.15	10. 3	10.23	2日遅	1日早	少ない	多い	少ない	良
宮 崎	496	495	100
早期栽培計	479	478	100	8. 1	8. 7	8.17	7日遅	8日遅	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
広域沿海	479	478	100	8. 1	8. 7	8.17	7日遅	8日遅	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
普通栽培計	509	509	100	9.30	10.13	10.27	1日早	並み	少ない	やや多い	やや少ない	良
広域沿海	450	471	96	9.23	10. 8	10.18	1日早	1日遅	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
広域霧島	540	529	102	10. 3	10.16	11. 2	並み	並み	少ない	やや多い	やや少ない	良
西北山間	485	488	99	9.25	10. 8	10.18	1日遅	並み	少ない	平年並み	少ない	良
鹿 児 島	479	479	100
早期栽培計	430	439	98	7.31	8. 6	8.16	3日遅	3日遅	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
薩摩半島	433	440	98	7.31	8. 7	8.13	3日遅	3日遅	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
大隅半島	442	449	98	8. 2	8. 7	8.20	3日遅	3日遅	少ない	やや少ない	少ない	良
熊毛・大島	402	412	98	7.23	7.28	8. 5	5日遅	5日遅	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
普通栽培計	494	492	100	10. 5	10.15	10.28	1日遅	1日遅	少ない	やや多い	やや少ない	良
薩摩半島	470	473	99	10. 3	10.12	10.24	2日遅	1日遅	少ない	やや多い	少ない	良
出水薩摩	498	491	101	10. 8	10.17	11. 1	1日遅	並み	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
伊佐始良	510	512	100	10. 5	10.17	10.30	並み	1日遅	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
大隅半島	474	471	101	9.26	10. 9	10.17	1日遅	並み	少ない	やや多い	少ない	良

注 :1 刈取期の始期とは刈取面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

2 宮崎県及び鹿児島県の県平均の「刈取期」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均をとりまとめているため「…」で示しています。

表3 平成22年産水稻の被害種類別被害面積及び被害量(県別)

区 分	総 数		気 象 被 害					
			計		うち 風水害		うち 日照不足	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	663 900	137 400	318 700	81 000	34 200	6 910	169 700	43 300
福 岡	136 900	21 300	74 900	13 800	2 390	313	39 400	5 770
佐 賀	93 800	23 200	44 900	14 200	302	86	25 000	9 150
長 崎	46 400	12 100	24 200	6 970	2 440	324	14 000	4 200
熊 本	93 600	27 300	47 000	17 600	4 160	1 550	22 100	7 710
大 分	80 300	17 000	40 200	10 700	1 170	200	24 300	7 340
宮 崎	68 600	15 800	24 900	7 400	3 490	2 160	20 100	4 860
鹿児島	144 100	20 600	62 500	10 400	20 200	2 280	24 800	4 240

区 分	病 害						虫 害	
	計		うち いもち病		うち 紋枯病		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	180 000	33 100	51 100	12 000	72 700	14 200	146 800	19 000
福 岡	31 400	4 430	7 780	1 440	10 500	1 310	24 400	2 080
佐 賀	26 900	4 970	1 810	178	18 200	4 050	21 400	3 670
長 崎	9 360	2 680	1 870	760	5 840	1 640	11 400	2 000
熊 本	24 700	5 850	7 450	2 050	7 220	1 560	20 800	3 500
大 分	25 200	4 340	7 230	1 800	7 730	1 480	13 400	1 090
宮 崎	26 100	5 600	11 600	3 420	9 160	1 710	16 400	2 260
鹿児島	36 400	5 190	13 400	2 350	14 000	2 410	38 900	4 400

区 分	虫 害				その他	
	うち ウンカ		うち カメムシ		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	26 500	8 030	16 700	2 240	18 400	4 300
福 岡	2 690	512	2 950	142	6 170	1 020
佐 賀	4 750	2 400	1 680	123	626	354
長 崎	3 610	1 170	821	86	1 460	451
熊 本	4 080	1 440	1 910	443	1 100	390
大 分	949	243	905	166	1 480	854
宮 崎	3 350	1 070	3 050	459	1 230	581
鹿児島	7 050	1 190	5 350	817	6 310	654

注:1 被害面積の総数並びに気象被害、病害及び虫害の計は、被害種類別面積の延べ数であり、同一地域で2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上しています。

2 被害面積及び被害量については、ラウンドしているため、県ごとの積み上げ値と九州計は一致しません。

【参考 1】

平成22年産水稻の作柄表示地帯別の作況指数

区 分	作況指数	区 分	作況指数
福岡	97	宮崎	100
福岡	97	広域沿海	99
北九州・豊前	100	広域霧島	102
筑豊	97	西北山間	99
北筑後	97	早期栽培計	100
南筑後	95	広域沿海	100
佐賀	94	普通栽培計	100
佐賀	94	広域沿海	96
松浦	91	広域霧島	102
長崎	94	西北山間	99
西彼	91	鹿児島	100
東南部	95	薩摩半島	99
県北	93	出水薩摩	101
五島	83	伊佐始良	100
壱岐・対馬	102	大隅半島	100
熊本	99	熊毛・大島	97
県北	100	早期栽培計	98
阿蘇	99	薩摩半島	98
県南	99	大隅半島	98
天草	90	熊毛・大島	98
大分	98	普通栽培計	100
北部	98	薩摩半島	99
湾岸	99	出水薩摩	101
南部	98	伊佐始良	100
日田	98	大隅半島	101

【参考 2】

平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳(県別)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています(【参考4】参照)。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合 : %
平均対差 : ポイント

区 分	合 計	ふ る い 目 幅						
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm	
九 州	重量割合 本年値	100.0	76.8	16.0	3.1	2.0	1.3	0.8
	平均対差		16.9	△ 10.4	△ 2.9	△ 1.7	△ 1.1	△ 0.8
福 岡	重量割合 本年値	100.0	78.8	14.2	3.1	1.9	1.3	0.7
	平均対差		18.2	△ 11.1	△ 3.3	△ 1.9	△ 0.9	△ 1.0
佐 賀	重量割合 本年値	100.0	77.8	15.5	2.8	1.8	1.3	0.8
	平均対差		17.4	△ 9.8	△ 3.1	△ 2.6	△ 1.1	△ 0.8
長 崎	重量割合 本年値	100.0	68.9	21.9	4.2	2.7	1.3	1.0
	平均対差		14.5	△ 6.5	△ 2.5	△ 2.5	△ 1.9	△ 1.1
熊 本	重量割合 本年値	100.0	76.7	15.9	3.0	2.2	1.4	0.8
	平均対差		16.1	△ 10.6	△ 2.5	△ 1.1	△ 1.0	△ 0.9
大 分	重量割合 本年値	100.0	71.4	19.6	4.0	2.6	1.5	0.9
	平均対差		17.5	△ 9.6	△ 3.6	△ 1.9	△ 1.8	△ 0.6
宮 崎	重量割合 本年値	100.0	80.2	13.9	2.4	1.6	1.2	0.7
	平均対差		16.4	△ 11.4	△ 2.8	△ 1.2	△ 0.5	△ 0.5
鹿 児 島	重量割合 本年値	100.0	79.7	14.5	2.5	1.6	1.1	0.6
	平均対差		17.5	△ 11.1	△ 3.0	△ 1.7	△ 0.9	△ 0.8

単位 : kg

区 分	10a 当 たり 収 量 (1.70mm 選 別)	選 別 ふ る い 目 幅 別 10a 当 たり 収 量				
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm
		選 別	選 別	選 別	選 別	選 別
九 州	491	377	456	471	481	487
福 岡	486	383	452	467	476	483
佐 賀	493	384	460	474	483	489
長 崎	449	309	408	427	439	445
熊 本	512	393	474	489	501	508
大 分	495	353	450	470	483	491
宮 崎	496	398	467	479	487	493
鹿 児 島	479	382	451	463	471	476

- 注 : 1 平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値です。
 2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。
 3 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

【参考 3】

農家が使用した選別ふるい目幅の分布
【平成22年産水稻作況標本(基準)筆農家からの聞き取り結果】

単位：%

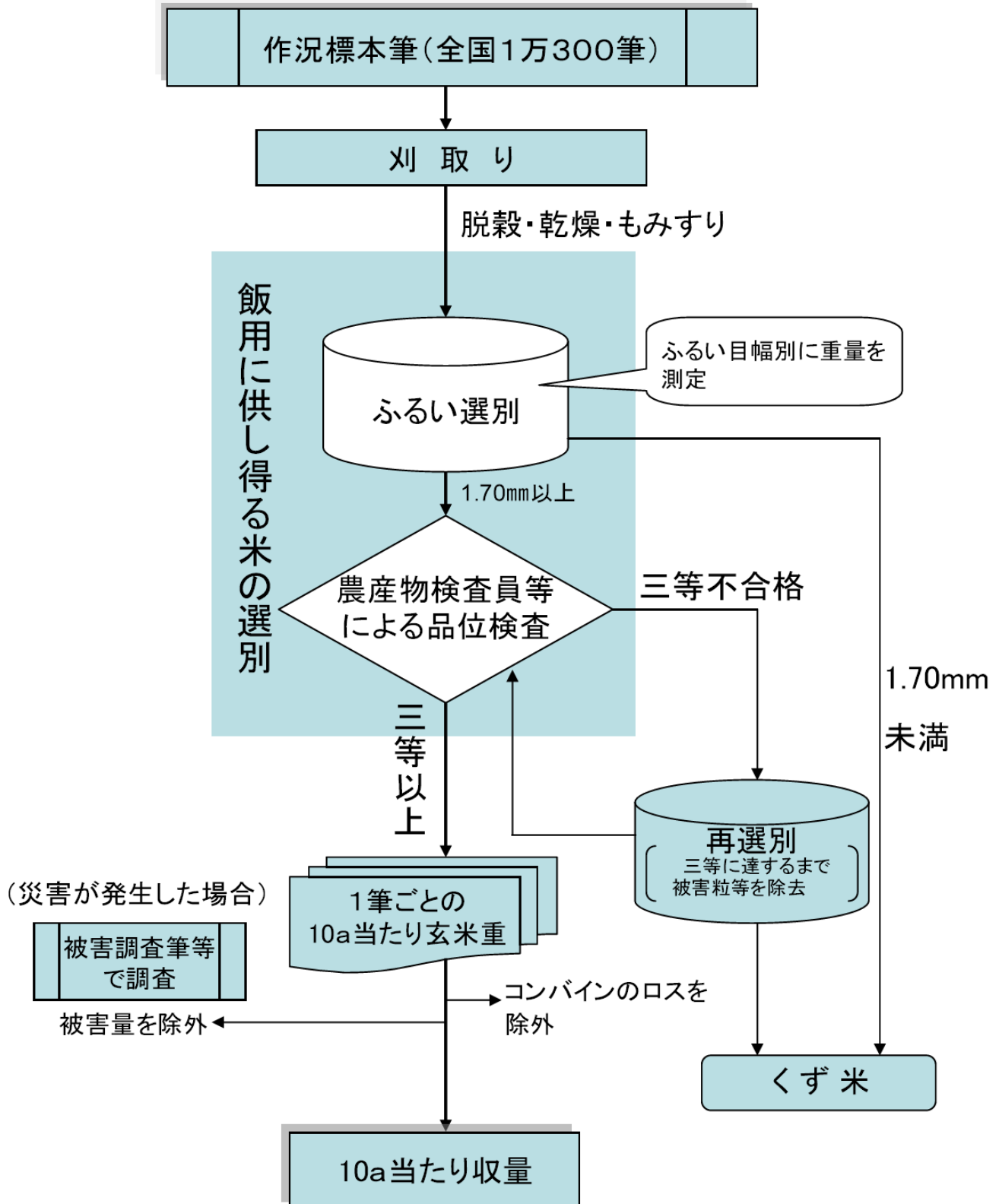
区分	計	2.00mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
九州	100.0	0.2	6.3	43.6	46.7	1.5	1.7
福岡	100.0	0.7	1.0	88.0	9.6	0.7	-
佐賀	100.0	0.4	39.5	59.7	0.4	-	-
長崎	100.0	-	-	14.7	68.1	4.9	12.3
熊本	100.0	-	1.3	52.9	41.4	2.4	2.0
大分	100.0	-	-	33.7	63.7	2.6	-
宮崎	100.0	-	-	-	100.0	-	-
鹿児島	100.0	-	-	14.6	85.4	-	-

注： この表は水稻作況標本(基準)筆調査農家が使用したふるい目幅別の農家割合です。

【参考 4】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考5】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格三等以上の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



作況標本筆とは

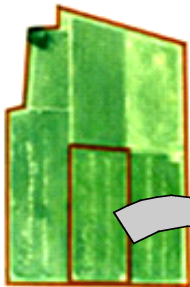
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。)は、都道府県ごとの水稲の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万300筆)しています。

都道府県内の全耕地
(母集団)



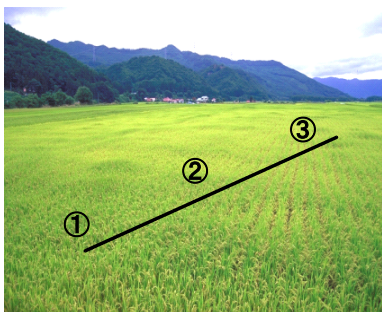
- ① 都道府県ごとの耕地を、約2haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区
(約2ha)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3か所を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っています。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査（水稲・陸稲）の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査期間

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲：7月15日現在
 - イ 陸 稲：収穫期
- (2) 収穫量調査
 - 水陸稲：収穫期

3 調査方法

- (1) 作付面積調査
 - ア 水稲：標本単位区に対する統計・情報センター職員及び統計調査員による実測調査並びに同センター職員による巡回・見積もり及び情報収集により行いました。
 - イ 陸稲：関係団体に対する郵送調査、職員による巡回・見積もり及び情報収集により行いました。
- (2) 収穫量調査
 - ア 水稲：作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する統計・情報センター職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積もりにより行いました。
 - イ 陸稲：関係団体及び標本経営体に対する郵送調査並びに統計・情報センター職員による巡回・情報収集により行いました。

4 調査対象数

- (1) 作付面積調査
 - ア 水稲：標本単位区：6,026単位区 巡回・見積り：233市町村
 - イ 陸稲：関係団体：1団体 巡回・見積り：233市町村
- (2) 収穫量調査
 - ア 水稲：作況標本筆：1,495筆 作況基準筆：176筆 巡回・見積り：233市町村
 - イ 陸稲：関係団体：2団体 巡回・情報収集：233市町村

5 用語の解説

- 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものです。
なお、青刈りには、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲を含みます。
- 「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

多少(良否)	少ない(不良)	やや少ない(やや不良)	平年並み	やや多い(やや良)	多い(良)
対平年比	94%以下	95～ 98%	99～101%	102～105%	106%以上

- 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。
- 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。
- 「10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量（原則として過去7ヶ年の実績値のうち、最高及び最低を除いた5ヶ年の平均値）に対する当年産の10a当たり収量の比率をいいます。
- 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）から減収した面積をいいます。
- 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）より減収した量をいいます。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/index.html>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4753・4754

直通電話： 096-353-7574

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画係

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4724

直通電話： 096-353-7554